

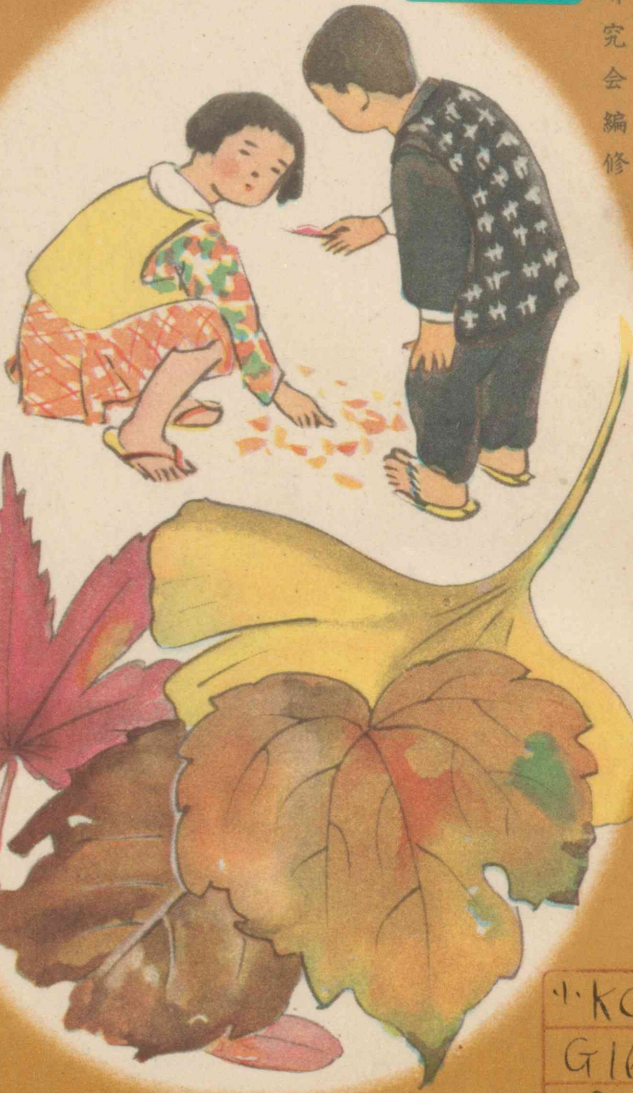
11	小国210
学 図	

教育部
資料室

文 部 省 検 定 済 教 科 書
法 財 人 団 学 校 図 書 研 究 会 編 修

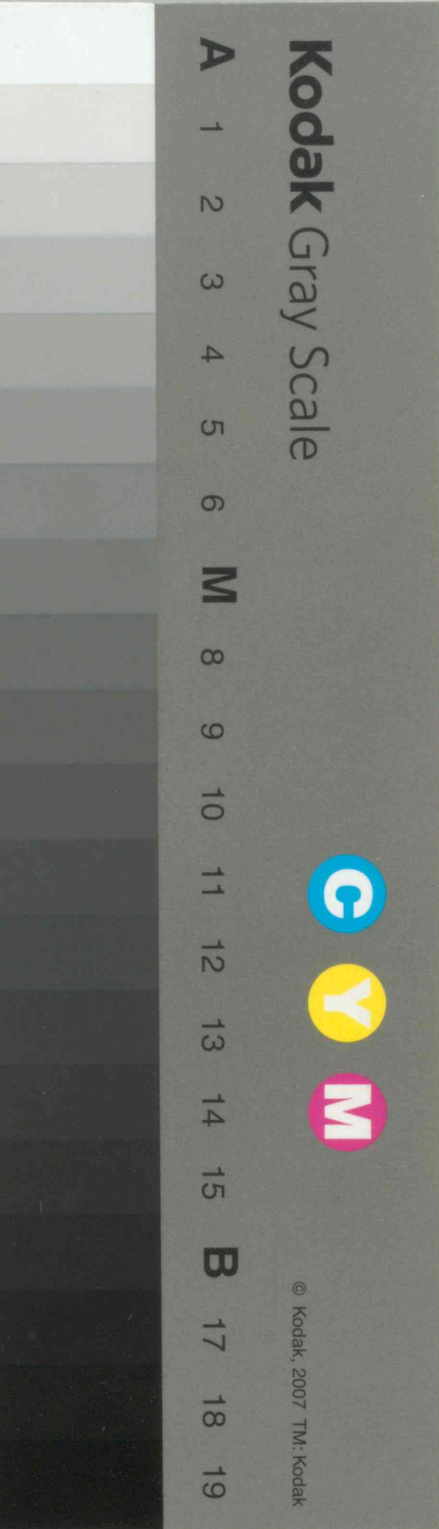
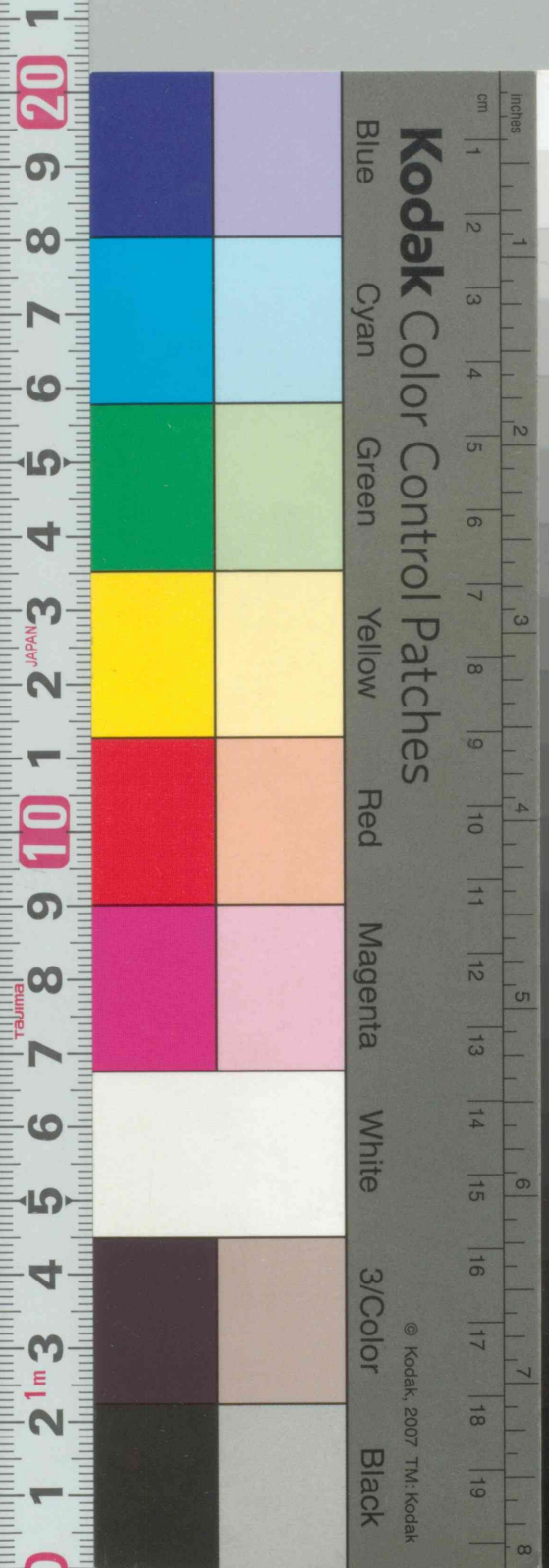
教科書文庫
6
810
34-1949
0130449666

こくご二年生 下



KC
G16
k

学校図書株式会社発行



60383
教科書文庫
6
810
34-1949
0130449666



寄 贈

昭和二十四年十月十日文部省検定済小学校国語科用

教科書文庫

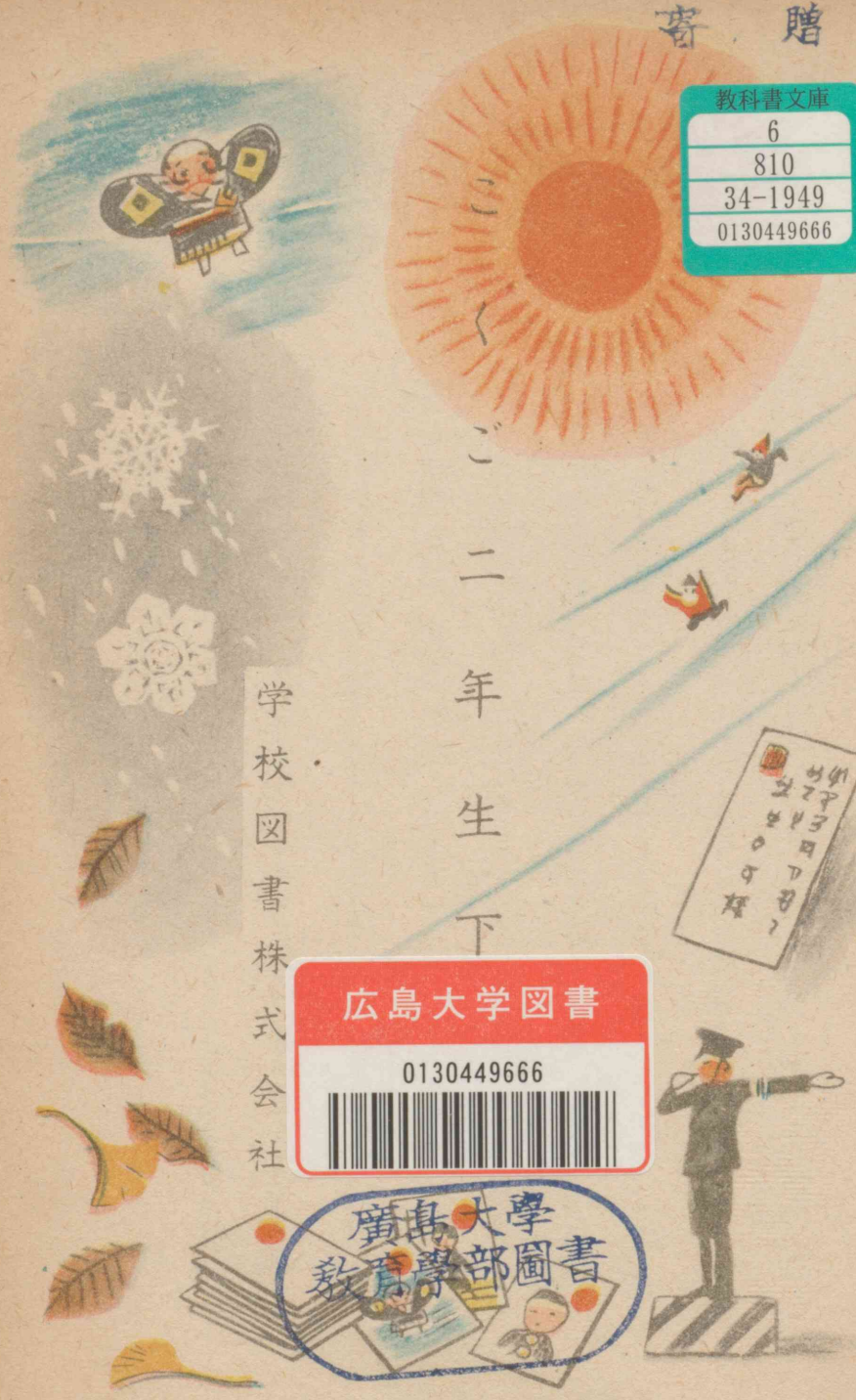
6

810

34-1949

0130449666

中央図書館



二 年 生 下

学校図書株式会社

広島大学図書

0130449666



広島大学 教育学部図書

広島大学図書

0130449666





(一) もくろく
山のぼり

一 山のぼり……………4
二 おちば……………12
三 かぜ……………18

(二) ふゆの町

一 としのいち……………26
二 おまわりさん……………32
三 はつゆき……………37
四 かるたづくり……………43

(三) おともだち

一 たこあげ……………50
二 おたんじょうかい……………58

(四) がくげいかい

一 てがみ……………76
二 がくげいかい……………78
三 わたしは 春のつかいです……………84
四 お日さまと 風……………87
五 ぼくの おとうさん……………100
おしごとの 手びき……………114
あたらしく できた ことば……………123
かんじ……………127



(一) 山のぼり

一 山のぼり

空はきれいに はれて います。
きょうは まさおさんたちの

山のぼりです。

「よういはいかね。」

と、おとうさんが おっしゃいました。
おともたちも ききました。

みんな リックサックを もって
います。

「まあ、みなさん、うれしそうですね。
げんきで 行って いらっしやい。」

と、おかあさんが にこにこしながら
おっしゃいました。

「さあ、でかけよう。」

と、おとうさんは げんきな 声で
おっしゃいました。

「空は あお空、よい てんき。」





みんな げんきに あるきましょう。」

ゆきこさんが うたいました。

いなかみちを あるいて いきます。

「かかしが 立って いるよ。」

と、たかしさんが いいました。

かかしは、やぶれた ふくを きて、大きな ぼうしを

かぶって います。口が「へ」の 字に なって います。

大きな 目で、ひろい たんぼを 見て います。

かかしの ぼうしには、すずめが とまって いました。

まもなく、山みちに はいりました。

あちら こちらに、わらやねの いえが 見えます。

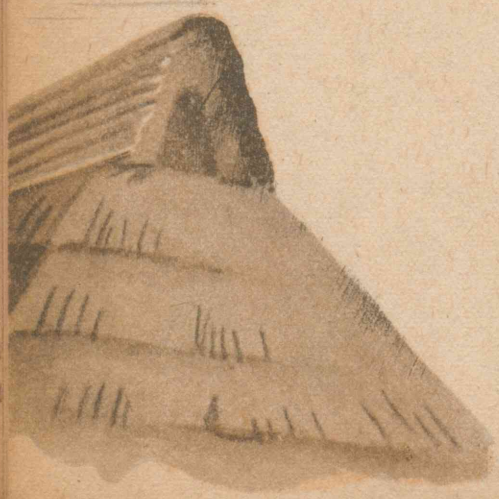
どの いえの まえにも、大きな かきの木が 立って

います。

赤い かきが、たくさん なって います。

「とって たべたいなあ。」と、まさおさんが ほしそうに

いったので、みんなが わらいました。



「キキッ、キキッ。」

と、もずの 声が きこえます。

みんなは 赤く なった

もみじの 下を、どんどん

あるいて いきました。

ゆきこさんのかおが、あかるく

なって みちがえるようでした。

みちおさんは、もみじの はを

ぼうしに つけて、うれしそうで

す。



「りすが、りすが。」

と、おとうさんが おっしゃいました。

見ると、かわいらしい りすが、木から 木へ とびう

つって います。

こちらを 見て、目を くりくり させました。

まさおさんが はしって いきました。

りすは、木の あなへ はいつて しま

いました。

みんなは また、あるきました。

ひろい ところに できました。





「ついた、ついた。」

と、ゆきこさんがうれしそうに
いいました。

みんなはリックサックを
おろしました。

おとうさんが、

「こちらへいらっしゃい。たいそをしてからやす

みましよう。」と、おっしゃいました。

すずしいかぜがふいてきます。

「きもちが いいね。」と、まさおさんがいいました。

山の 上には、大きな いわが ありました。

みんなは その 上 に のぼりました。

「ここが 一ばん たかいんだね。」

と、みちおさんはうれしそうです。

みんなが やすんで いると、はなし

声 が きこえて きました。

どこかの おじさんたちが のぼって きます。

「おうい。」と、いうと、「おうい。」と、へんじを します。

おじさんたちと、いっしょに、ごはんを たべました。

山は にぎやかでした。



二 おちば

おにわに 木の はが おちました。
赤い はっぱ、
きいろい はっぱ、
ひらひら ひらひら おちました。

おにわに 木の はが おちました。
まるい はっぱ、
ながい はっぱ、

ぱらぱら ぱらぱら おちました。

おにわに 木の はが おちました。
大きな はっぱ、

小さな はっぱ。
ゆらゆら ゆらゆら おちました。

おにわに かぜが ふきました。
木の はが さっと とびました。



○

まさおさんは 目を さましました。

さらさら さらさら

と いう、音が きこえます。

まどを あけて にわを 見ました。

きいろい いちようの はが、

ひとひら ひとひら おちて いきます。

かぜも ないのに すうっと おちます。

木の はは、えだに かかり、といに あたって、

おちて いきます。



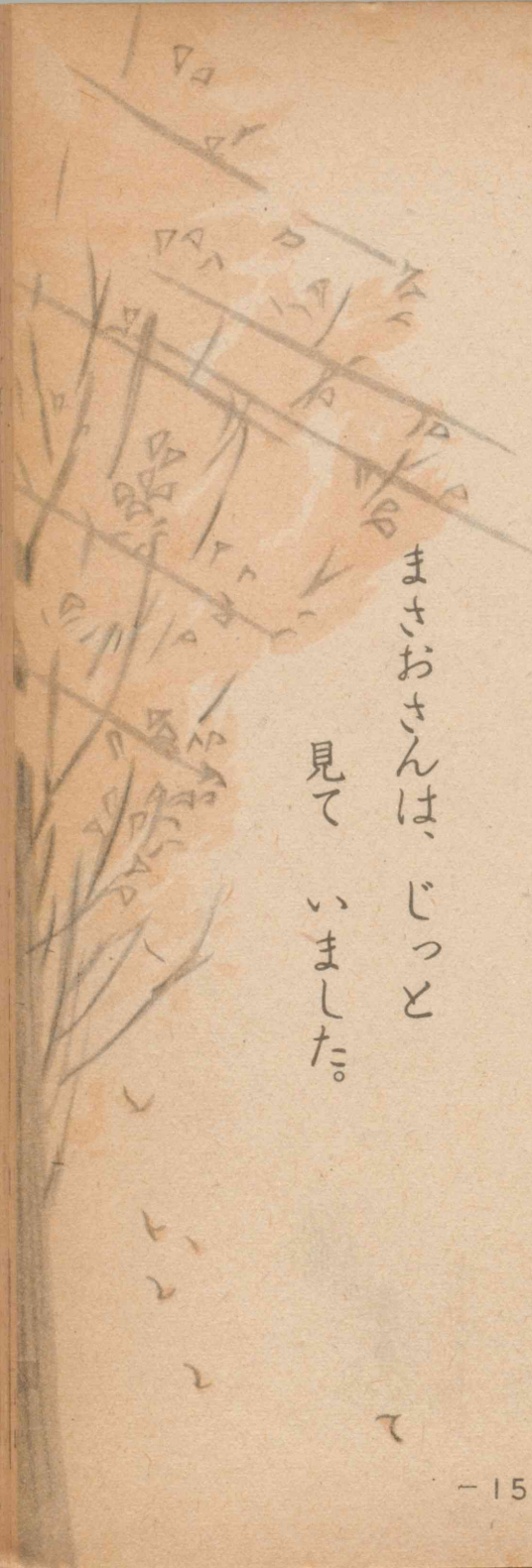
くるくる まわって おちて いきます。

かぜも ないのに 木の はが おちる。

かぜも ないのに 木の はが おちる。

まさおさんは、じっと

見て いました。



「にいさん、にいさん。」

と、よしこさんが よんで います。

「おちばを たきましよう。」

よしこさんは ほうきを もって

ふたりで おちばを はきました。

「サアッ、サアッ。」

と、きもちの いい 音です。

みるみる うちに、 おちばの 山が できました。



おちばは 少し ぬれて います。

まさおさんが 火を つけました。

「パチ、パチ、パチ。」

音を たてはじめました。

白い けむりが

あがります。

たかく たかく

あがります。

しずかな あさの

おにわです。



三 かぜ

かぜが ふいて いきました。
ひろい とおりを、さあっと ふいて
いきました。

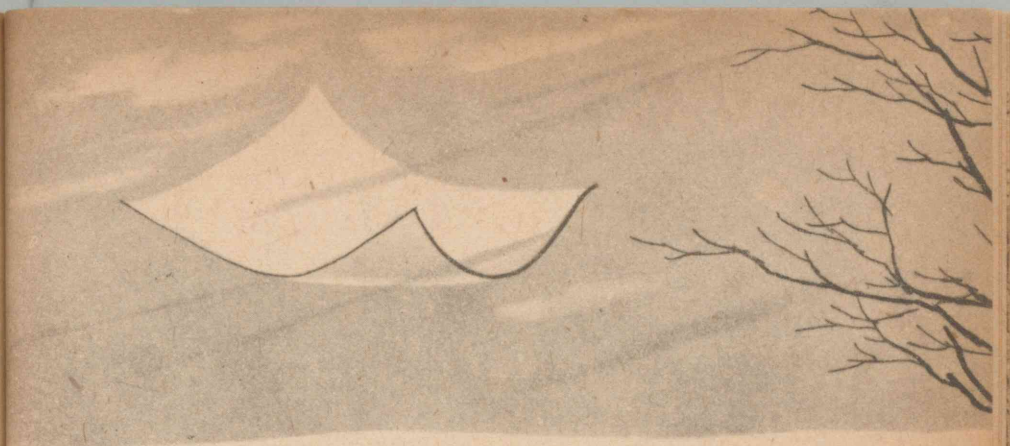
一まいの 紙が おちて いました。

「かぜさん、つれて 行って ください。」

と、紙は いました。

ふたりで たかく とびあがりました。

どこまでも どこまでも あがりました。



家が だんだん 小さく
なります。

みちを あるいて いる人

が、ありのように 見えます。

紙は、

「もう かえるよ。

さようなら。」

と、いって、 わかれました。

かぜは また、ひとりに なりました。

ある 家の まえに きました。





おにわに かざぐるまが あります。

「あ、これは いい。」

と いった、かぜは ちかよりました。

「グルグル、グルグル。」

かぜは ちから いっぱい

まわりました。

「やあ、よく まわる、よく まわる。」

と、だれかが いったいます。

見ると、まさおさんです。

「まさおさん、こんにちは。」

と いった、あいさつを
しました。

まさおさんは、

「かぜさん、げんきが いいね。」

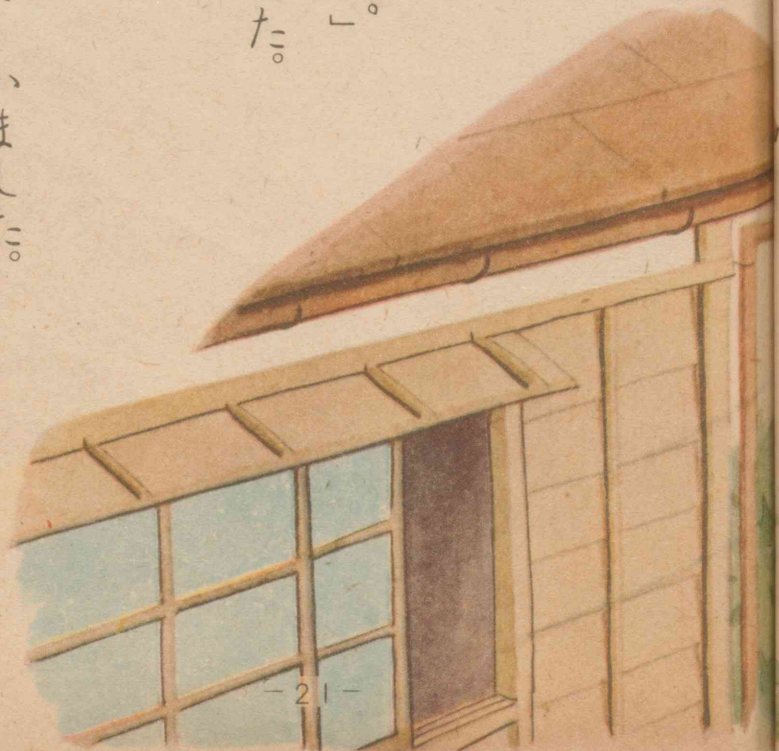
と いった、ほめて くれました。

かぜは うれしく なって、

また、とんで いきました。

赤い やねの 上を、とんで いました。

おへやの まどが、少し あいて います。





かぜは すうっと はいりました。

ゆきこさんの 家です。

ゆきこさんは 本を よんで います。

かぜは、

「ゆきこさん こんにちは。」

と、 いました。

すると、 つくえの 上の かびんが

ころがりました。

本が ぬれて しまいました。

「ごめんね、ごめんね。」

と いった、 かぜは あやまりました。

ゆきこさんは、

「まあ、どう しましょう。」

と いった、 なきだし そうな かおを しました。

かぜは、 いそいで そとへ にげて きました。

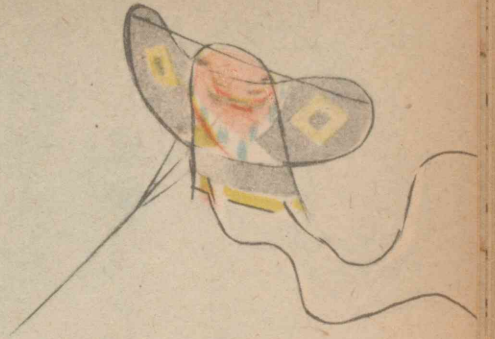
それから、 かぜは どんどん 歩いて きました。

いつの まにか、 一ろうさんの 家の 近くに きて

いました。

一ろうさんは たこあげを して います。



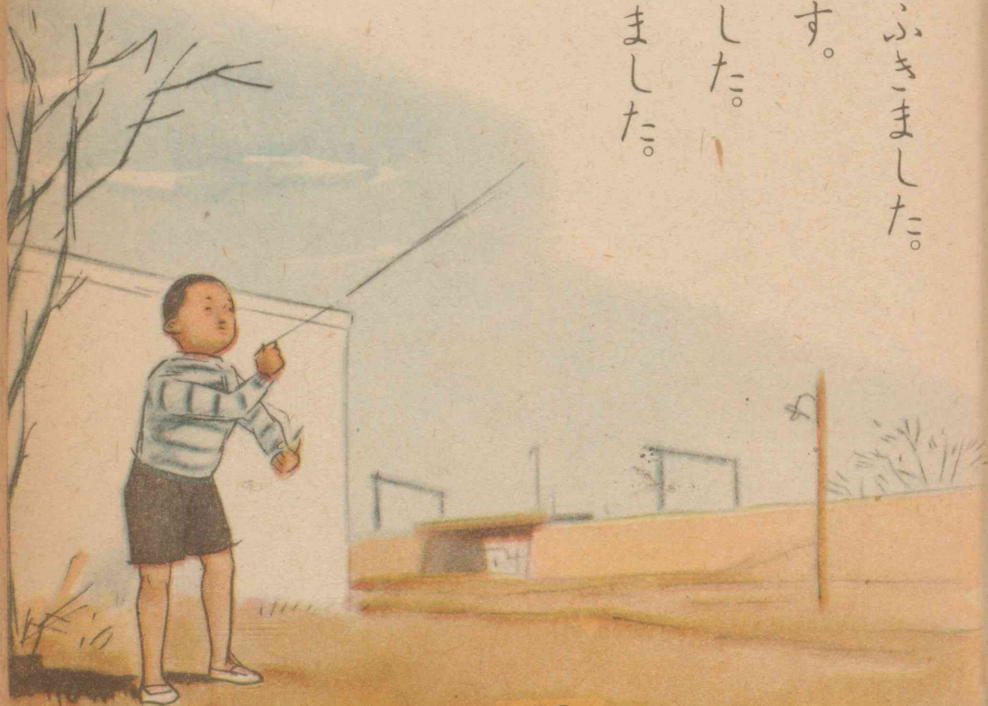


大きな やつこだこです。
 一ろうさんは、いっしょう
 けんめい あげようと して
 いますが、なかなか あがり
 ません。

かぜは さあつと、たこの ところへ とんで いきました。
 たこは すうっと あがりました。

かぜは、ちから いっぱい ふきました。
 たこは どんどん あがります。
 木よりも たかく あがりました。
 やねよりも たかく あがりました。
 「やあ、あがった、あがった。」
 一ろうさんは にこにこ
 うれしそうです。

かぜは これから どこへ
 いくのでしょう。



(二) ふゆの町

一 としのいち

にちよう日の あさです。

おとうさんが、

「まさおさん、としのいちを

見にいきましたよ。」

と、おっしゃいました。

まさおさんは、おとうさんと いっしょに いくので、



うれしくて たまりません。

よしこさんも ついて いきました。

風の ない あたたかい 日です。

まさおさんは、よしこさんと 手を つないで、

おとうさんより

さきに あるいて

いきます。

えいがかんの

まえを とおって、

にぎやかな



とおりに できました。

たくさんの こうこくが、ひらひら して います。

「おとうさん、あれ なんと

かいて あるの。」

と、よしこさんが いました。

おとうさんが、

「『としのいち』と、かいて

あるんだよ。」

と、おっしゃいました。

たくさんの 人が、ぞろぞろ

あるいて います。

りょうがわには、

きれいに かざった

おみせが ならんで

います。

まさおさんたちは、

おみせを 見ながら あるきました。

どの おみせにも、「としのいち」「としのいち」と

かいた こうこくが、さげて ありました。

「ありがとうございます。」

「としのいち」



と、いう、おみせの人の声もきこえます。
赤いふくをきた、おにんぎょうを、かざったおみ
せも ありました。



「おにんぎょうさん、きれいなね。」と、いって、よしこさん
は 立ちどまって 見て います。
「よしこさん、早く いらっしやい。
まい子に なるよ。」
と、まさおさんが いました。
よしこさんは 走って きました。
「あ、かるたが。」

こんどは、まさおさんが 立ち
どまりました。

「まさおさん、ほしいの。」
と、おとうさんが おっしゃいました。
「いいの、おとうさん。ぼく ひとり
で つくるから。」
と、まさおさんが いました。
少し いくと、よつかどに ました。
そこに、おまわりさんが 立って いました。





ニ おまわりさん

よつかどは たいへん

にぎやかです。

じどうしゃが 走って

いきます。

じてんしゃも 走って

いきます。

としのいちで たくさん

の人が でて います。

おまわりさんは、みちの

まん中にある だいの上

に あがって います。

ふえを ふきながら、手で

あいずを して います。

「ピイツ」と、ふえを ふい

て 手を あげると、じどう

しゃや じてんしゃが うご

きだします。人も あるきだ

します。



「おばあさんは、けがを
よしかったわね。」
と、いいました。

もう ひとりの おまわりさんが、いそいで おばあさ
んの ところへ いきました。
手を とって、つれて、いって あげました。

見て いた 人は、ほっと しました。
まさおさんたちも、よつかどを
とおって かえりました。

よしこさんが、

また、ふえを ふくと、うごいて
いた じどうしゃや 人が とまり
ます。
とまる あいずの とき、つえを
ついた おばあさんが、とおろうと
しました。
おまわりさんは、
「ピ、ピイツ。」と、ふえを ふきました。
おばあさんは あいずが わかりません。
そのまま いこうと します。





おかあさんが、
「まさおさん、まさおさん。ゆきがふりましたよ。」

と、よんでいらっしやいます。

まさおさんはとびおきて、そ
とにでてみました。

おにわにはゆきがつもつて
います。

木の 上も 石の 上も まっ

三 はつゆき

きました。
きゆうに さむく なりました。
おうちが 見えて きたので、
まさおさんたちは 走って
かえりました。



おとうさんが、
「おまわりさんは ありがたいね。よしこさんたちも、
よつかどを とおる ときには、きを つけなさいよ。」
と、おっしやいました。

空には くもが でて

きました。

きゆうに さむく なりました。

おうちが 見えて きたので、

まさおさんたちは 走って

かえりました。

白です。

ゆきの 上を あるくと、げたの あとが はっきりと つきます。

石の 上の ゆきを つかんで
みました。つめたい ゆきが、
さらさらと おちます。
まさおさんは、かおを あらって
うちに はいりました。
ちやのまに 行って、
「おとうさん、ゆきが ふって いるよ。」



と、うれしそうに いました。
しんぶんを 見て いらっしや
った おとうさんは、
「はつゆきだね。もっと ふれば
いいね。」
と、おっしゃいました。
ごはんが すんで、まさおさんは とおりへ できました。
道の 上にも、やねの 上にも、ゆきが つもって、町
が 白く 光って 見えます。





ゆきの おにごっこのようです。
まさおさんは、おともだちと 学校
へ でかけました。
ゆきの 町を、人が いそがしそ
うに とおって います。
みんな さむそうです。
ねぎや にんじんを のせた じど
うしゃが、走って きました。
にもつの 上に ゆきが のって
います。



しろも うれしそうに、走りまわっ
て います。
また、ゆきが ちらちら ふって
きました。
まさおさんは、上の ほうを じっ
と 見ました。
たかい たかい 空から、くろい
ものが おちて きます。
ふわり、ふわり。
風に ふかれて とんで いきます。

「ジャージツ。」と、きもちのいい音をたてて、走って
いきます。

じどうしゃのとあったあとに、くろいすじがつ
づいています。

道のゆきが、だんだん
とけていきます。

学校からかえるころは、
家のかげのゆきだけが、
白く見えていました。



四 かるたづくり

まさおさんは、ゆきこさんたちと かるたを つくりま
した。

「い、ろ、は、に、ほ、へ、と。」は、まさおさん、

「ち、り、ぬ、る、を。」は、たかしさん、

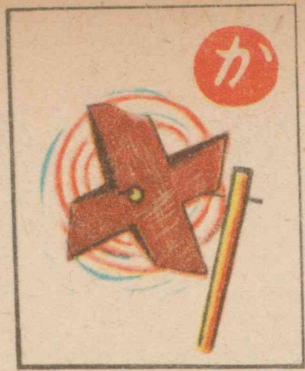
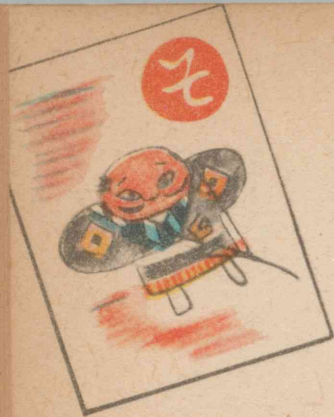
「わ、か、よ、た、れ、そ、つ、ね。」は、ゆきこさんが

つくる ことになりました。

じぶんの つくった ものには、えも

かく ことに しました。





る(ル) るすばん しつかり きをつけて。
 を(ヲ) 「を」の字は ことばの 下につく。
 わ(ワ) わたしの にんぎょう かわいいね。
 か(カ) 風に くるくる かざぐるま。
 よ(ヨ) よい 子 つよい 子 げんきな 子。
 た(タ) たかい たかい すべりだい。
 れ(レ) れんげ たんぽぽ はるの くさ。
 そ(ソ) 空に あがった やつこだこ。
 つ(ツ) つみ木あそびで お家をつくる。
 ね(ネ) ねんねんころりよ おころりよ。

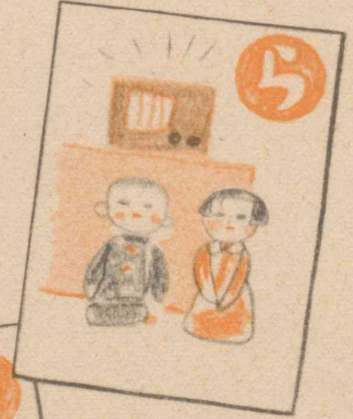
い(イ) いつも にこにこ げんきな 子。
 ろ(ロ) ろうかは しずかに あるきましょう。
 は(ハ) 走れ 走れ みんな 走れ。
 に(ニ) にっこり わらって おてつだい。
 ほ(ホ) 本を たくさん よみましょう。
 へ(ヘ) へんじは いつも げんき よく。
 と(ト) トマトが まっかになりました。
 ち(チ) チンチロ チンチロ あきの 虫。
 り(リ) りすさん 木のぼり じょうずです。
 ぬ(ヌ) ぬりえあそびは おもしろい。



のこりの かるたは、みんなで 考える ことにしま
した。

まさおさんが、はじめの ことばを 考えました。
ゆきこさんと たかしさんは、おしまいの ことばを
考える ことに しました。

な(ナ) なんでも じぶんで、
ら(ラ) ラジオを いっしょに、
む(ム) むこうの 山に、
う(ウ) うさぎの おめめは、



る(キ) 「あ」の 字は これから、
の(ノ) のはらで はなつみ、
お(オ) おうまに のって、
く(ク) くまさん きつねに、
や(ヤ) やなぎに とびつく、
ま(マ) まわる まわる、



こんどは ゆきこさんが、はじめの ことばを 考え
ました。



け(ケ) けむりが たかく、
 ふ(フ) ふわり、ふわり、
 こ(コ) ころ ころ ころがる、
 え(エ) えにつき わすれず、
 て(テ) てつだい いつも、
 あ(ア) あさの たいそう、
 さ(サ) さるさん はしごが、
 き(キ) きしゃ きしゃ、
 ゆ(ユ) タやけ こやけ、
 め(メ) めだかを すくった、

み(ミ) みんな いっしょに、
 し(シ) しらない ことは、
 る(エ) 「る」の字はこれから、
 ひ(ヒ) ひばりが あがる、
 も(モ) もう いいかいと、
 せ(セ) 先生 にここに、
 す(ス) すずめ ちゅん ちゅん、



(三) おともだち

一 たこあげ

はれた 空に、たこが あちらにも こちらにも、あが
つて います。

まさおさんが、

「おとうさん、たこを かって くださいね。」
と いうと、おとうさんは、

「かって あげても いいが、つくって あげよう。おと

うさんの 子どもの ときは、

だれも つくった ものだ。まさ

おさんにも できるよ。」

と、おっしゃいました。

よしこさんも ひろしさんも、

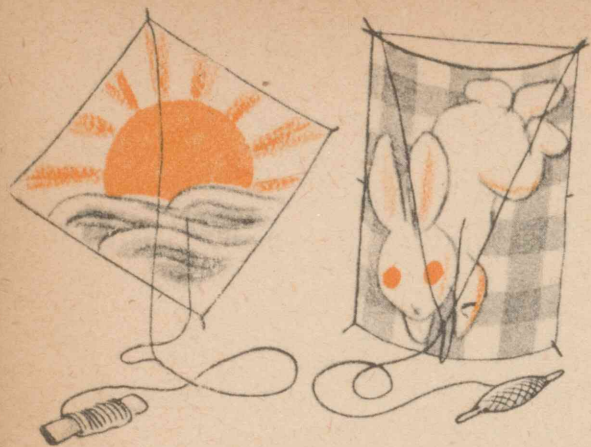
おとうさんの 手の うごくのを

見て います。

まるい たけが「ポンポン。」と、音を

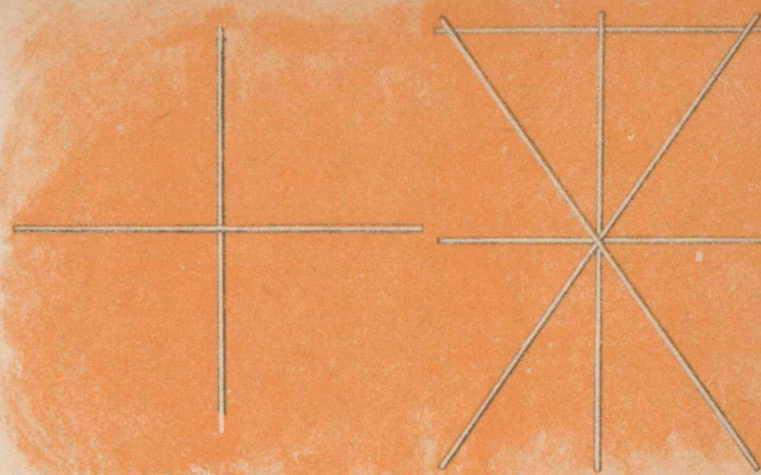
たてながら、ふたつから よつつと、





まさおさんは、お日さまの えを かきました。
 こんどは、のりづけです。
 おとうさんの なさったように、すると、うまく つき
 ました。糸も つけました。

まさおさんは、おとうさんと 川どて
 に いきました。
 うちの 人は、みんな ききました。
 みちおさんも ゆきこさんも、見に
 きました。



を、おかきになりました。
 だんだん 小さく なって いきます。
 「シュツ、シュツ。」と、おもしろいよう
 に けずられて、ほねが できます。
 まさおさんは、おとうさんの まねを
 して、ほねを けずりました。
 ほねが 二本 できあがりました。
 まさおさんは、しょうじ紙を つぎま
 した。それを 四かくに きりました。
 おとうさんは、たこに うさぎの え

はじめに、おとうさんが おあげに なりました。

よしこさんが たこを もちました。

おとうさんは、糸を 三十メートルぐらい のばしまし

た。よしこさんが はなすと、すぐに

おひきに なりました。

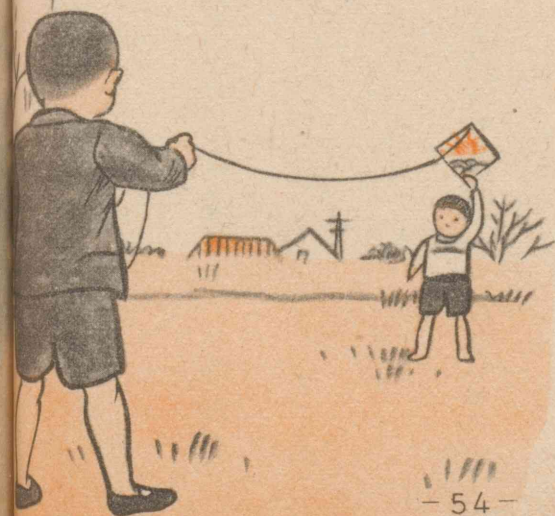
たこは、ぐんぐん あがって いき

ます。

まさおさんは、みちおさんに

もって もらいました。

おとうさんの なさった とおり、



糸を ひきました。

うまく あがりません。

とうとう おちて しまいました。

まさおさんは、左がわに テープを

つけました。

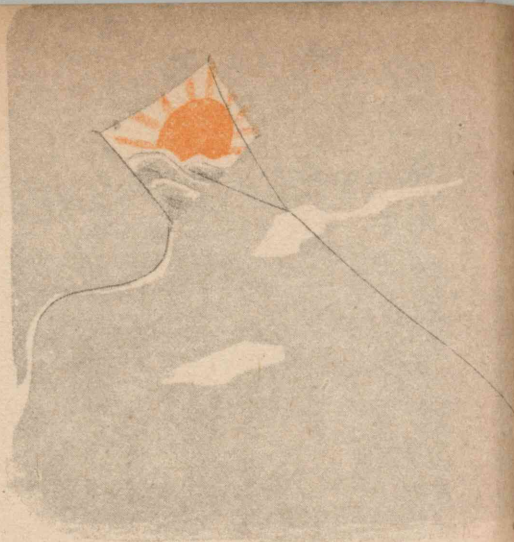
こんどは、うまく あがりました。

糸を のばすと、たこは ぐんぐん あがって いきま

す。おとうさんの たこも ぐんぐん あがります。

うさぎの えも、お日さまの えも、見えないうように

なりました。



ふたつの たこが、ポツカリ ういて うごきません。
とびが、たこの まわりを まわって います。



みちおさんが、

「ぼくにも 糸を もたせてね。」

と いったので、まさおさんは

糸を わたしました。

「つよく ひくね。」

と、みちおさんが いました。

ひろしさんは、おとうさんの

糸を もたせて もらいました。

つよい 風が ふいて きて、

ひろしさんが、少しばかり

ひっぱられて いきました。

「おとうさん、おとうさん。」

と、ひろしさんが いました。

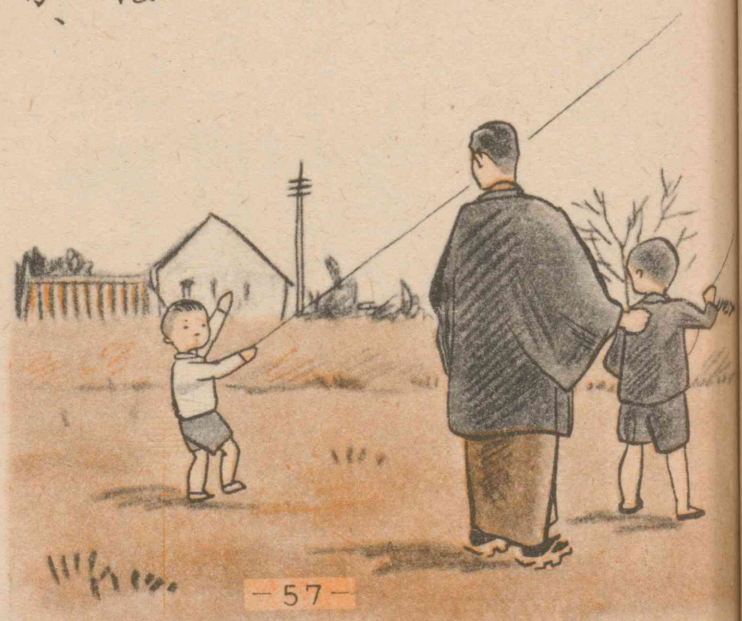
よしこさんは はしって いっ

て、ひろしさんの 糸を ひっぱ

って やりました。おかあさんが、

「たこの ほうが、ひろしさんより つよいね。」

と 言って、にっこり なさいました。



二 おたんじょうかい

(一) はなしあい

みちおさんたちは、まさおさんの うちで、きしゃごっこを して いました。まさおさんの おかあさんが、「こんどの にちよう日は、まさおさんの おたんじょう日ですから、あそびに いらっしゃい。」と、おっしゃいました。

きしゃごっこが すんで、たかしさんたちは、みちおさ

んの うちに あつまりました。

まさおさんの おたんじょう日の ことを、はなしあい

しました。

みちお 「おいわいに なにか いい

ものを あげましょう。」

すみこ 「わたくしたちの 手で でき

る ものを、あげると いいわね。」

たかし 「えを かいて あげたら

いいと おもうね。」

みちお 「それは いいね。」





(二) おたんじょうかい

にちよう日に なりました。

みちおさんたちは、まさおさんの
うちへ いきました。

みんな 「まさおさん おめでとう。」

まさお 「ありがとう。」

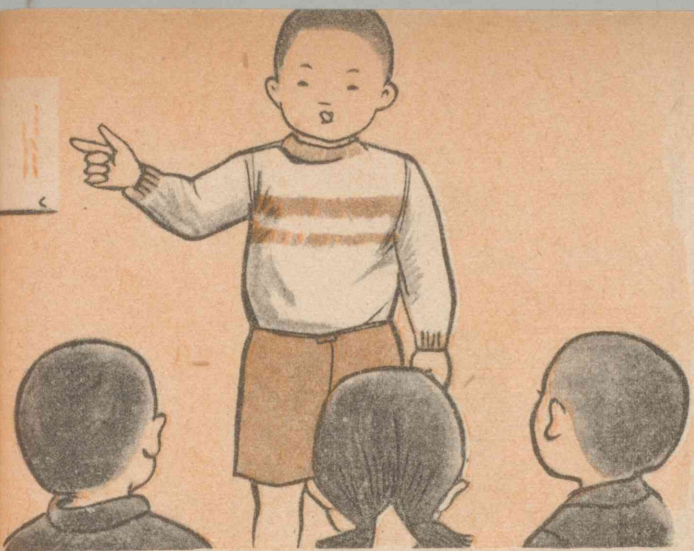
みんな 「おばさん おめでとう。」

おばさん 「ありがとう。よくきて
くださいました。きょうは、ゆっ

くり あそんで ください。」

みんな えを かって、もって いく ことに しました。
たかし 「にぎやかな おもしろい ことも、して あげ
よう。」
ゆきこ 「がくげいかいのような ことを しましょう。」
たかし 「いいね。ぼくは ハーモニカを ふきます。」
ゆきこ 「わたくしは うたを うたいます。」
すみこ 「わたくしは おはなしを します。」
みんな、こんどの にちよう日までに、よいする こ
とに しました。

まさおさんは にこにこして います。
よしこさんも ひろしさんも でて きました。
おばさんは、みんなに おかしを くださいました。



みちお 「これから、まさおさんの
たんじょうかいを します。」
まさお 「それは うれしいな。」
おばさん 「どんな ことが ありますか。」
ゆきこ 「プログラムを 見て くだ
さい。」
たかしさんは、かべにプログラムを



まさおさんの

たんじょうかい



- 一 おいわいの しなもの
- 二 ゆきこさんの うた
- 三 たかしさんの ハーモニカ
- 四 すみこさんのおはなし
- 五 みんなの うた

はりました。よしこさんが、
「がくげいかいのようね。」
と、いいました。
ひろしさんも 大よろこ
びです。
みちおさんが、四人の
えを まさおさんに あげ
ました。
まさおさんは、それを
かべに、はりました。

みちおさんーじどうしゃの え。
ゆきこさんーはなの え。
すみこさんーおにんぎょうの え。
たかしさんーでんしゃの え。
おばさんは、
「みんな おじょうずですね。」
と いった、おほめに なりました。この とき、まさお
さんの おとうさんが、でて いらっしゃいました。
ゆきこさんが 立って、「おかしいな。」の うたを う
たいました。

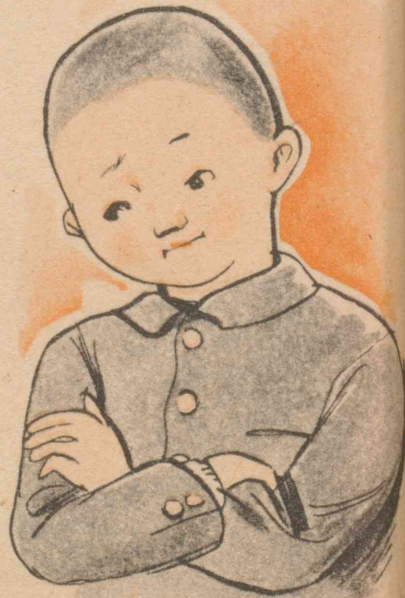
おかしいな

おかしいな、
おかしいな。

白い ごはんが ぼくに なる。

おかしいな、
おかしいな。

あつい おしるが ぼくに なる。



おかしいな、
おかしいな。

まるい たまごが ぼくに なる。
やいた おのりが ぼくに なる。

おかしいな、
おかしいな。

みんな たべれば ぼくに なる。
たべると みんな ぼくに なる。



たかしさんが ハーモニカで、
「おちば」の うたを ふきまし
た。

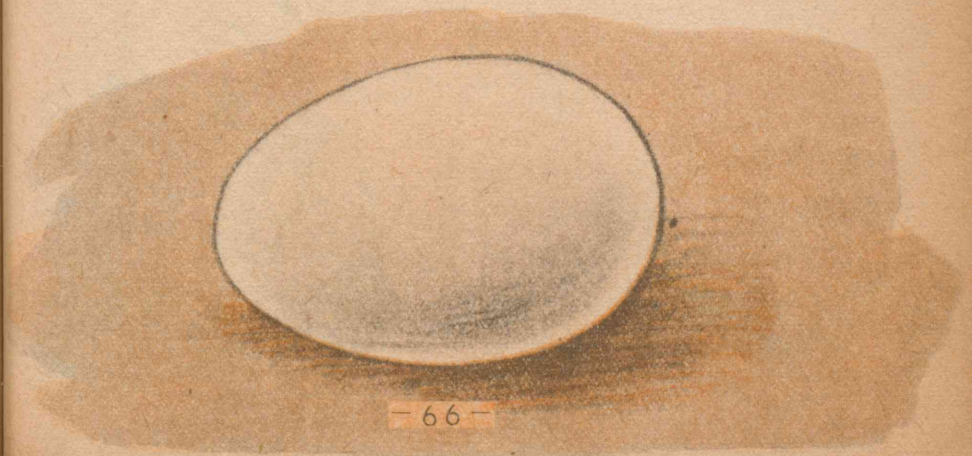
ふたりとも じょうずに でき

たので、みんな 手を たたきました。

こんどは、すみこさんが おはなしを しました。

ひつじかい

とんきちさんは、おとうさんも おかあさんも ありま
せん。





おじさんの
うちに、おせわにな
って います。

おじさんの
うちには、ひつじが
十ぴき います。

とんきちさんは、学校から かえる
と、ひつじの おせわを するのです。
ある日、ひつじを つれて のはら
に できました。

ひつじは、うれしそうに 草を た
べて います。

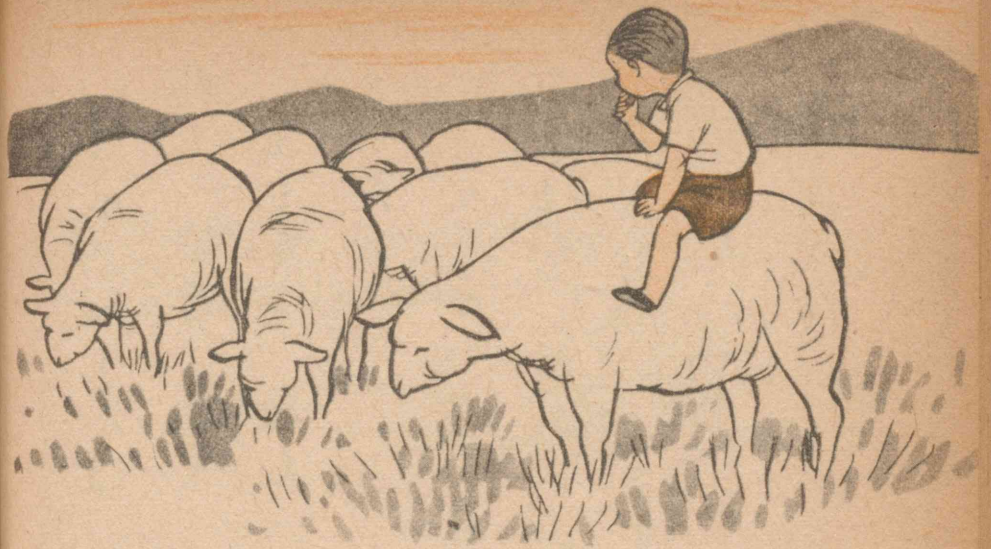
とんきちさんは、草の 上に
ねて、空を 見て いました。
まもなく、ねむって しま
いました。

きが ついた ときには、お
日さまが、西の 山へ はいろ
うと して います。

おきあがって、くちぶえを
ふきました。

ひつじは、とんきちさんの





まわりに あつまりました。
 とんきちさんは、ひつじに のっ
 て、かえろうと しました。
 ひつじの かずを、かぞえて み
 ました。
 九ひきしか いません。
 おどろいて、ひつじから おりて
 かぞえました。
 こんどは 十ひき います。
 また、ひつじに のりました。

ひつじの 上から かぞえて み
 ると、九ひきに なって います。
 とんきちさんは、ひつじを つれ
 て、走って かえりました。
 大きな 声で、
 「だれかが きて、ひつじを 一ひ
 き かくしたよ。」
 と、おうちの 人に いいました。
 ひつじの 一ひきは、だれが か
 くしたのでしょう。



すみこさんの おもしろい おはなしに、みんなはわ
らいだしました。

まさおさんの おとうさんは、

「すみこさんも なかなか じょうずですね。それでは、

おじさんも おはなしを しましょう。

おじさんの おはなしは、まさおの 小さい ときの

ことですよ。」

と、おっしゃって、おはなしを なさいました。

まさおさんの 小さい とき

ある 日、おきやくさんが
いらっしやいました。

おきやくさんが、かえろうと

すると、ぼうしと くつと つ

えが ありません。

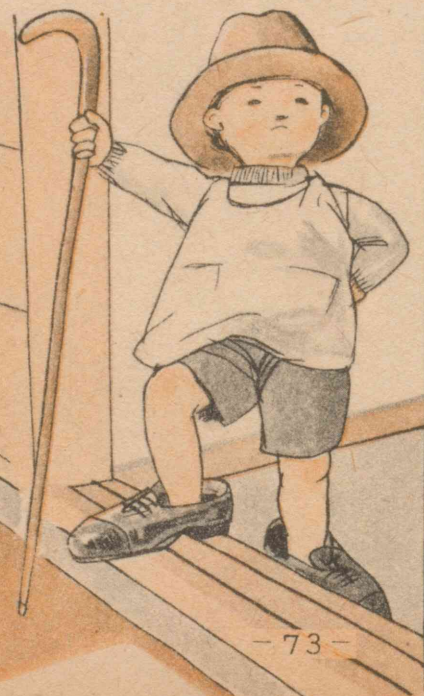
みんなで さがしましたが、

みつかりません。

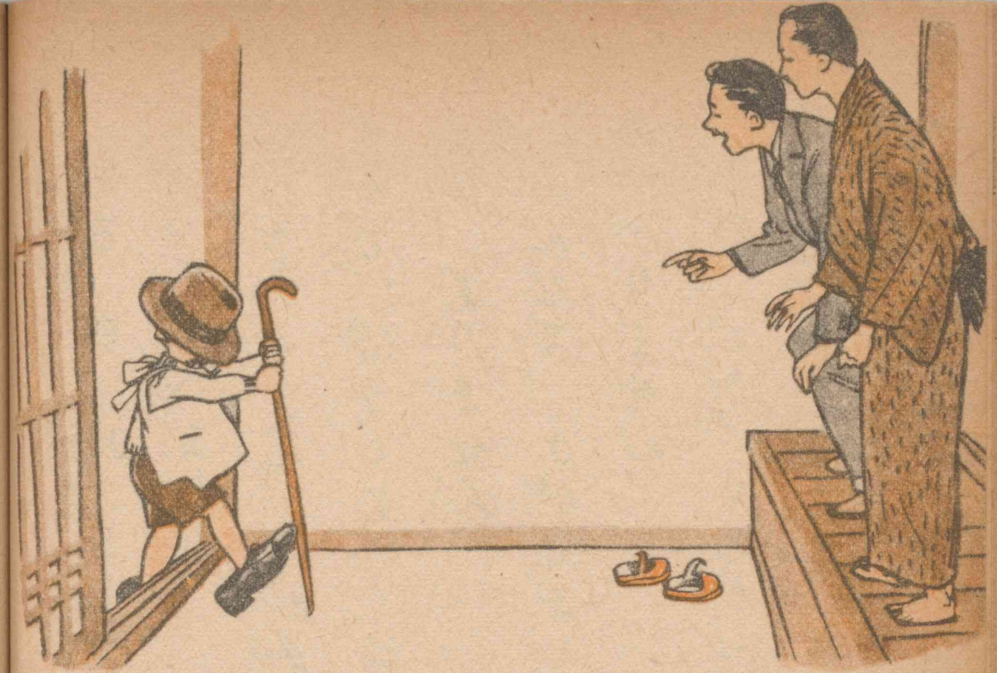
その とき、そこから くつ

の 音が きこえて きました。

だれかと おもって 見ると、



ぼうしをかぶって、い
ると、おとうさんのよう
だね。
と、おっしゃいました。
おじさんの おはなしに、
みんなが どっと わらい
ました。



まさおです。
おきやくさんの ぼうしをか
ぶって、くつをはき、つえを
もって かえって きました。
まさおは、
「おじさん ちょっと かりまし
たよ。ごめんね。」
と、いいました。
おきやくさんは にっこりして、
「まさおさん ありがとうね。」

(四) がくげいかい

一 てがみ

おじさん、

だんだん あたたくく なって きましたね。

おうちの 人は みんな おげんきですか。

ぼくは げんきです。

おとうさんも おかあさんも げんきです。

こんどの にちよう日に、ぼくたちの がくげいかいが

あります。

ぼくは げきに できます。

「お日さまと 風」という、げんきです。

ぼくは お日さまに なります。

学校が すんでから、いつも

おけいこを して います。

おじさん、見に きて ください。

一ろうさんも いっしょにね。

まさお

おじさんへ



二 がくげいかい

もう すぐ、がくげいかいが 始まりませう。

ゆきこさんの おとうさんが、おいでに なりました。

みちおさんの おかあさんも、おいでに なりました。

だんだん おきやくさんが あつまって、おへやは

いっぱいになりませう。

まもなく、ふえが なって

がくげいかいが 始まりませう。

した。



たかしさんが 立って、

「はじめの あいさつ」

を しました。

「わたくしたちは、これから がくげいかいを します。

おはなし、うた、おどり、そのほか おもしろい もの

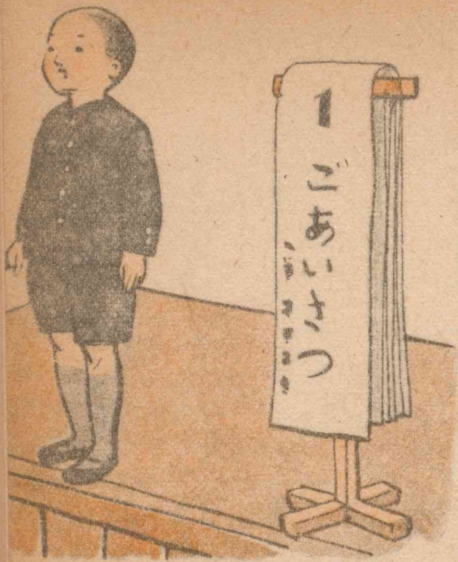
が、たくさん あります。このあい

だから、みんな いっしょうけんめ

い おけいこを して きましたが、

まだ、じょうずに できないのも

あります。でも、カーぱい します。



では、これから はじめます。
たかしさんは、げんきな 声で いいました。
「パチ、パチ、パチ、パチ。」
あちらからも こちらからも、手を たたく 音が きこえます。



一ばん はじめに ゆきこさんが、
「わたしは 春の つかいです。」
と、いう、うたを よみました。
つぎに、みちおさんが おともたち
と、「うさぎの でんぼう」の がっし

ようを しました。
まさおさんは おともたちと、
「お日さまと 風」
と、いう、げきを しました。
たかしさんは、
「ぼくの おとうさん」
と、いう、おはなしを よみ
ました。

すみこさんは、
「かわいい さかなやさん」



と いう、おどりを
おどりました。

がくげいかいはど
んどん すすんで、ど
うとう おしまいに
なりました。

こんどは、まさおさ
んが 立って、

「これで、わたくした
ちの がくげいかい



が すみしました。みなさん、おしまいまで 見て くだ
さって、ありがとうございます。おじさん おばさん、
さようなら。」

と、おしまいの あいさつを しました。

おきやくさんは、ぞろぞろ かえって いきます。

先生は にこにこしながら、

「みんな、よく できたね。」

と、おほめになりました。

三 わたしは 春の つかいです

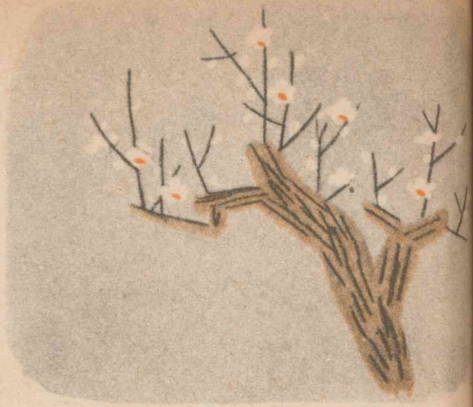
わたしは 春の つかいです。
ゆきの お山の むこうから、
谷を わたって きたのです。



草の なかまは ねむって いました。
そっと なでると、すみれだけが
目を さましました。



やぶかげに 白い うめが、
かわいい はなを つけて います。
うぐいすの うたが、
きこえました。



小川の 水が、よろこびの
声を あげて います。
せりが せのびして いる あいだを、
めだかが すいすいと でて きました。



わたしの 足音を きくと、
子どもたちが
とびだして きました。
そつと
かおを なでると、
にこにこ
空を 見あげました。

こんやは、ひばりの おうちに いきましよう。



四 お日さまと 風

でる人 くも。 風。 お日さま。 うさぎ。

木。 家。 たび人。

ところ ひろい のはらの 中。

左の ほうから、くもが でて きます。

くも 「ああ、いい おてんきだ。なんと いい
おてんきだろう。おや、きゆうに 風が でて
きたようだ。」

右の ほうから、風が でて きて、くもに つきあたります。

風 「くもくん、のきたまえ。

ビュウ。」

くもは 風に ふかれて、
ころげそうに なります。

くも 「風さん、そんなに

しないで ください。」

風 「さあ、はやくのき

たまえ。この 空で

ぼくが 一ばん つ

よいのだ。ぼくが

ふいて いくと、だれだって にげて しまうよ。」

くも 「そんな ことは ない。お日さまの ほうが つ

よいよ。」

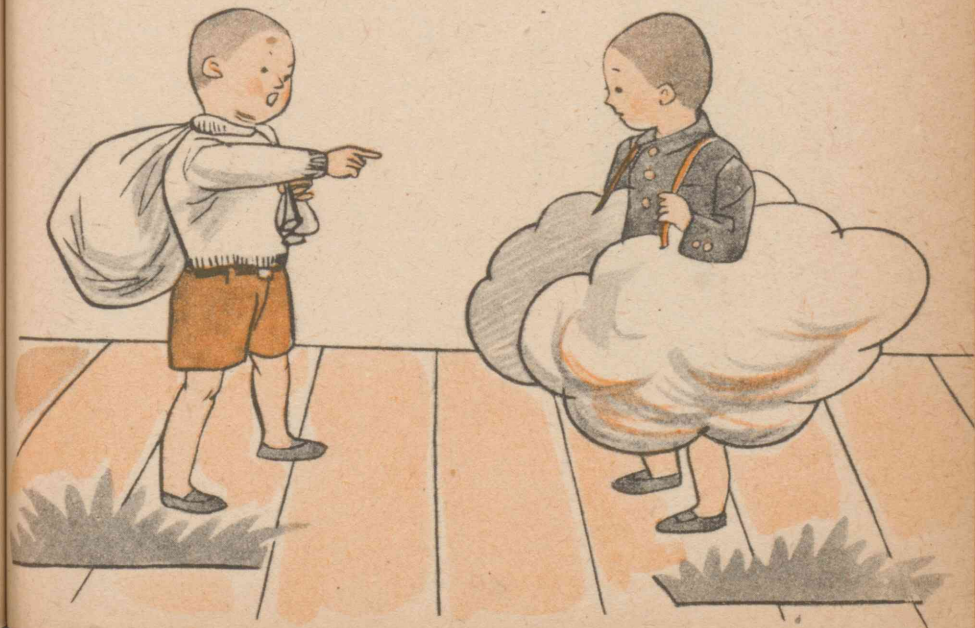
風 「いや、ぼくの ほうが つよいよ。」

その とき、左の ほうから、お日さまが でて き
ます。

お日さま 「風さん、こんにちは。」

風は、へんじを しないで、だまって います。

くも 「ねえ お日さま。お日さまの ほうが、風さんよ
りつよいでしょう。」



お日さま 「――」。

風 「ぼくが つよいに きまって いるよ。」

お日さま 「風さんも つよいが、わたしも つよだよ。」

風 「いや、ぼくの ほうが つよだよ。きみは ぼくの力を しらないのだ。ぼくが『ビュウ』と ふくと、どんなに 大きな 木でも、家でも、と んで しまうのだよ。」

お日さま 「では、みせて もらいましょう。」

風 「ようし、みせて やろう。よういを するまで まって いたまえ。」

風は、ふくろから 大きな うちわを、ゆっくりと だします。その とき、「じゃんけんぽんよ、あいこで しょ。もう いいかい。もう いいよ。」の 声が きこえます。うさぎが 三びき でて きて、木の

かげや、家の かげに かくれま

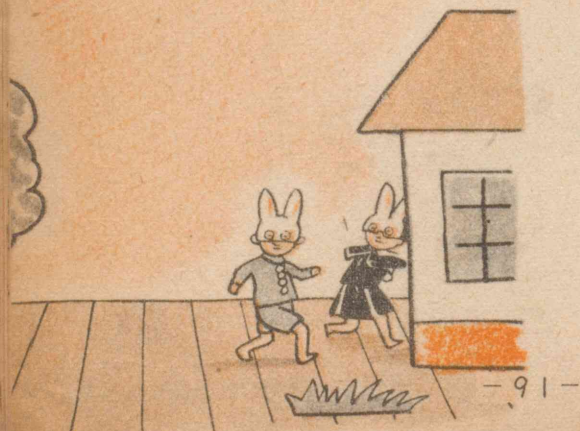
す。あとから、もう 一びきの

うさぎが さがしに きます。

うさぎ四 「あ、みつけた。うさ一くん。」

風 「では ふくよ。ビュウ。」

うさぎ一 「あ、風が ぶいて きた。」



うさぎ二 「これは つよい 風だね。ふきとばされて しま
うよ。」

うさぎ三 「これは たまらない。みんな かえりましよう。
うさぎ みんな 「かえりましよう。かえりましよう。」

うさぎは、ころころ ころがりながら
にげて いきます。

木 「家さん、つよい 風ですね。」

ふくが やぶれそうですよ。」

家 「ほんとうに つよいね。」

お日さま 「風さん、うさぎが にげただけ

ですよ。家も 木も、まだ
立って いますよ。」

風 「ようし。ビュウ ビュウ ビュウ。」

木 「あ、たおれそうだ。家さん、たすけて。」

木は 大きく ゆれて、家の ほうへ たおれます。

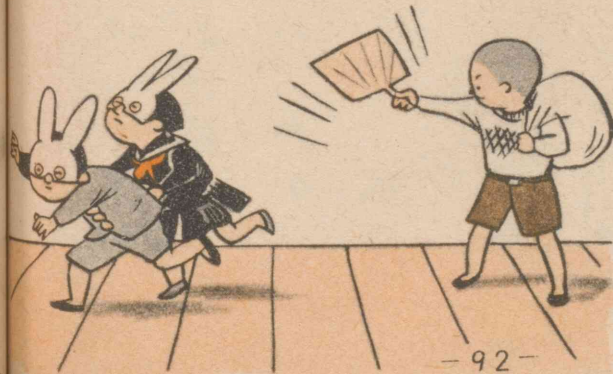
家 「ふきとばされそうだ。もう たまらない。」

くも 「これは たまらない。ぼくも ふきとばされそうだ。」

家は、すべって いて たおれます。

くもは、家の あとから にげて いきます。

風 「どうです。ぼくの 力は こんなものだ。」





お日さま 「なかなか つよいね。でも、わたしは もっと つよいよ。」

風 「なに、もっと つよい。では、見せて もらおう。」

その とき、たび人が 左の ほうか
ら でて きます。

お日さま 「ごらん。むこうから 大きな がいとうを きた
たび人が、くるでしょう。」

風 「それが どう したのだ。」

お日さま 「あの たび人で、風さんの カと わたしの カ

を くらべて みましよう。」

風 「そんな もの、ぼくだったら 一ふきで、ふきと
ばして しまいうよ。」

お日さま 「ふきとばすだけでは いけないのですよ。」

風 「では、どう するのだ。」

お日さま 「がいとうを ぬがせるのですよ。」

風さんには それが できますか。」

風 「できるとも。」

お日さま 「では、やって ごらん。」

風 「ようし。では ふくよ。ビュウ。」





たび人 「きゆうに 風が ふきだした。がいと

うが ぬげそうだ。」

風 「ビュ、ビュ、ビュウ。」

たび人 「ふきとばされそうだ。これは たまら
ん。立っては いられない。うつぶせに なるう。」

お日さま 「風さん、だめですね。」

風 「でも、うつぶせに なって いるのだもの。」

お日さま 「わたしなら うつぶせに なって いても ぬが
す ことが できますよ。」

風 「では、はやく 見せて もらおう。」

お日さま 「そう おこらないで、見て いなさい。」

たび人 「風が やんだ。さあ、でかけよう。ああ、あたた
かく なって きた。がいとを ぬごう。」

お日さま 「どうです 風さん。たび人が
がいとを ぬいだでしよう。」

風 「ほんとうだね。」

お日さま 「ねえ、どうして たび人が
がいとを ぬいだのか、わ
かりますか。なんでも 風さ
んのようにつよいはかりで



は、いけないのです。」

風は だまって、右の ほうへ でて いきます。

その とき、くもが 左の ほうから でて きます。

くも 「ああ、いい おてんきに なった。」

うさぎが 四ひき、右の ほうから でて きます。

うさぎ一 「やあ、風が やんだ。風が やんだ。」

うさぎ二 「いい おてんきに なった。」

うさぎ三 「お日さまの おかげですね。」

うさぎ四 「お日さまは ありがとうね。ああ、あたたかい。」

うさぎ二 「みんなで うたいましょう。」

うさぎ一 「みんなで おどりましょう。」

おそらは はれて、

よい てんき。

お日さま きらきら、

こんにちは。

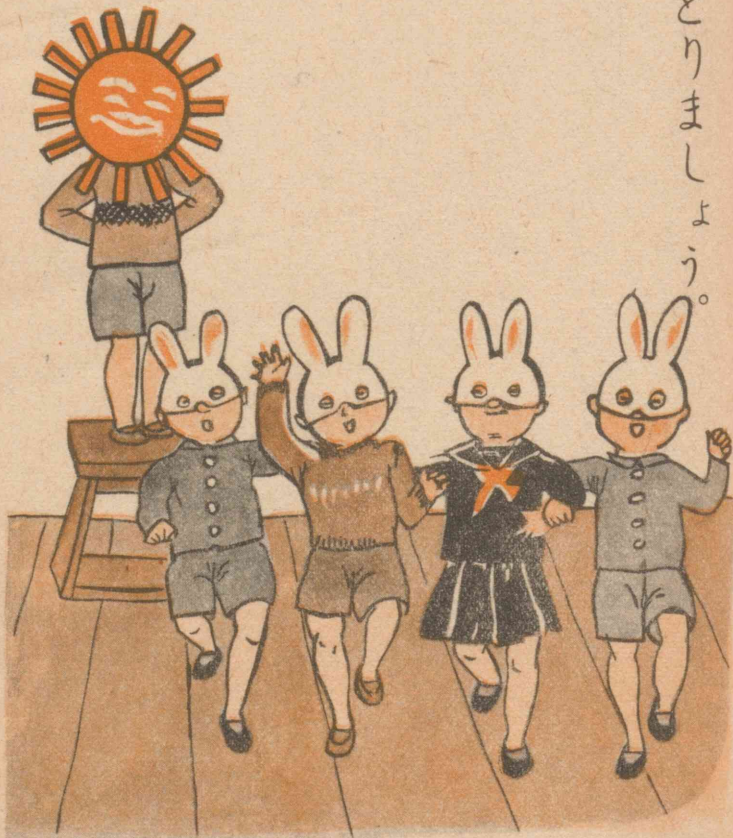
みんな にここに、

うれしいな。

うさぎたちは、み

んな うたいながら おどります。お日さまは にこ

にこしながら、それを 見て います。



五 ぼくの おとうさん

冬も すんで、あたたかい 春に なりました。

ぶたの ぶんちゃんは、あそびに できました。

道に きらきら 光る ものが、お

ちて います。

手に とって 見ると、じぶん

よく にた かおが うつります。

ぶんちゃんは おどろきました。

ぶんちゃんは、かがみで あるとは



しりません。

「なんだろう。ぼくに よく にて いる。あ、わかった。

きっと、ぼくの おとうさんだ。

うれしい、うれしい。」

「あ、こんどは わらったよ。

ぼくが うれしいので、お

とうさんまで わらった。

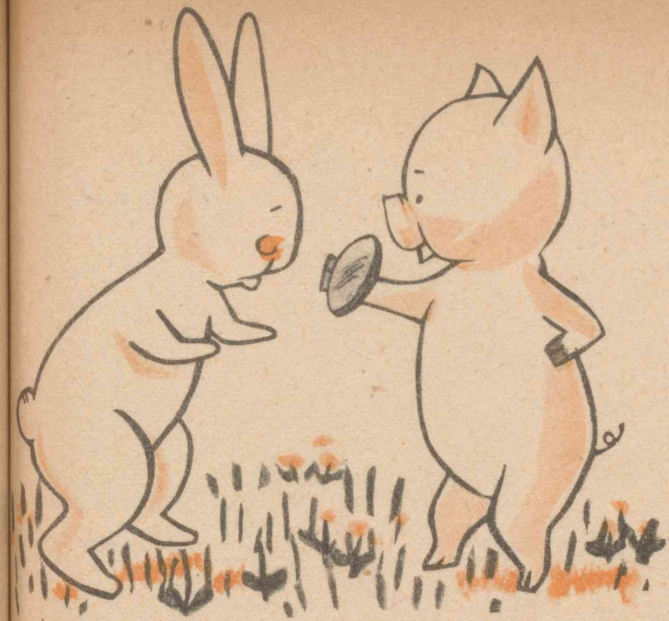
これから いつでも、おと

うさんに あえる。」

ぶんちゃんは よろこびました。



どこへ いくにも、この かがみを はなした ことが
ありません。



ある 日の ことです。
ぶんちゃんが 山道を とおっ
て いると、うさぎの みみちや
んに あいました。
「みみちゃん、いい ところで
あった。ぼくの おとうさんを
見せようか。」
「見せて ください。」

ぶんちゃんは、かがみを だして、みみちゃんに わた
しました。

みみちゃんは、かがみを 見て おどろきました。

「おや、これが ぶんちゃんのおとうさんだって、わた
くしの おとうさんですよ。」

と、みみちゃんが いいました。

ぶんちゃんは、みみちゃんのことばを、耳にも いれ
ないで いいました。

「なにを いった いるの、みみちゃん。ぼくの おとう
さんに ちがいないよ。」



たまりません。おかあさんにも 見せようと 思いました。

みみちゃんは かがみを
もって、走りだしました。

ぶんちゃんは、

「ぼくのおとうさんを
ったな。かえさないと
い
じめるぞ。」

と いいながら、みみちゃん
を おいかけました。

走る ことは、みみちゃん

みみちゃんは、
「ぶんちゃんには、にて
いないよ。わたくしの
おとう
さん そっくりだ。」
と いった、かがみを うしろに
かくしました。
「ぼくのおとうさんだよ。
はやく かえして。」
と、ぶんちゃんは いました。
みみちゃんは、ゆめに 見て
いた おとうさんに、あう ことが
できたので、うれしくて うれしくて



の ほうが、じょうずです。ぶんち
ゃんは、なかなか おいつきません。
むこうの ほうから、きつねの
こんちゃんが、きました。

ぶんちゃんは、

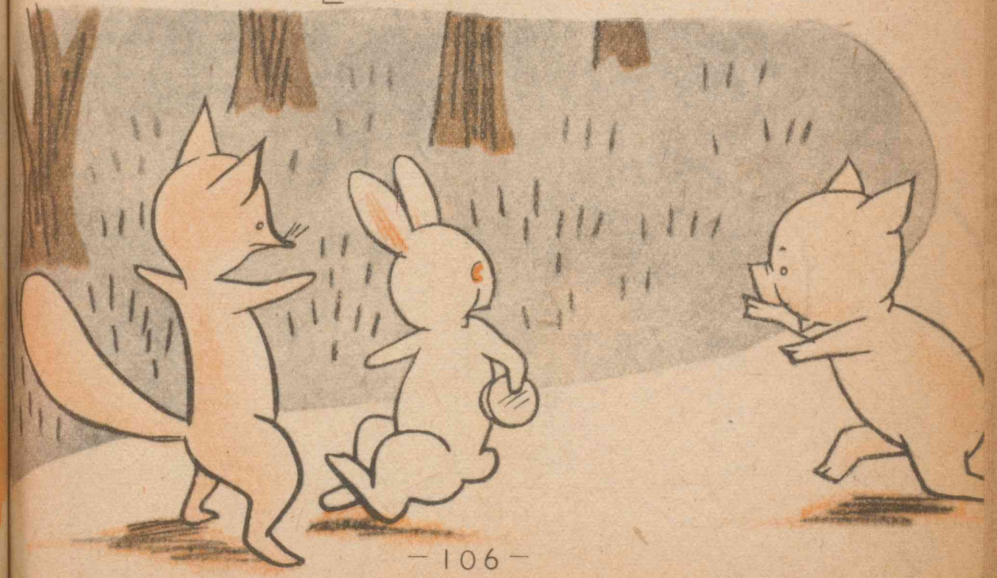
「こんちゃん、みみちゃんを

つかまえてよう。つかまえてよう。」

と、大きな 声で、いいました。

こんちゃんは、みみちゃんを

つかまえました。



やっと おいついた ぶんちゃんに、

「どうしたの。」

と、こんちゃんは、ききました。

ぶんちゃんは、

「みみちゃんが、ぼくの おとう

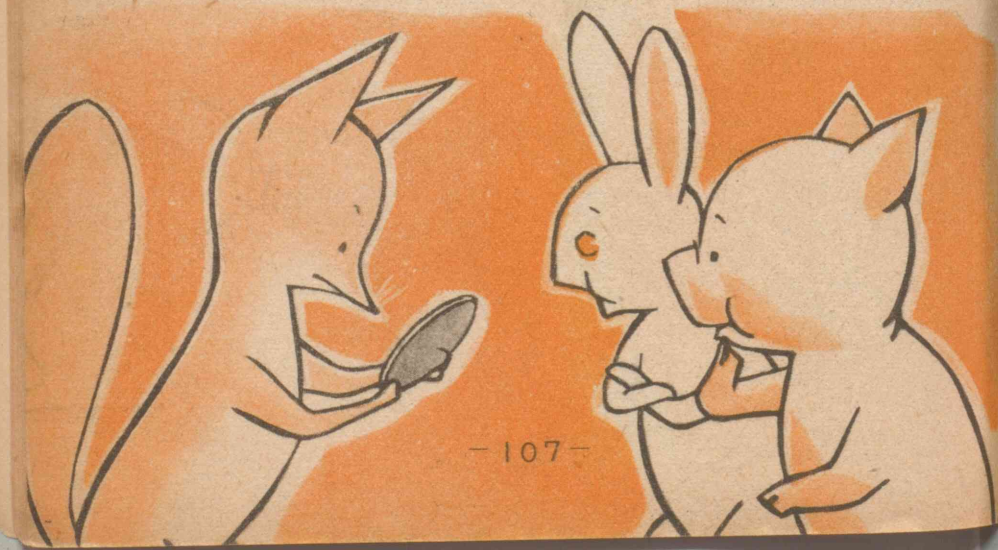
さんを とつたんだよ。」

と、いいました。みみちゃんも、

「これは わたくしの おとうさんよ。」

と、いいます。

「それでは、ぼくに 見せて ござらん。」



と いった、こんちゃんは かがみを みみちゃんから
とりました。 —

こんちゃんは、かがみを 見て おどろきました。

「ぶんちゃんも みみちゃんも、目が どうか なって

いるね。これは ぼくのおとうさんだ。もらって お

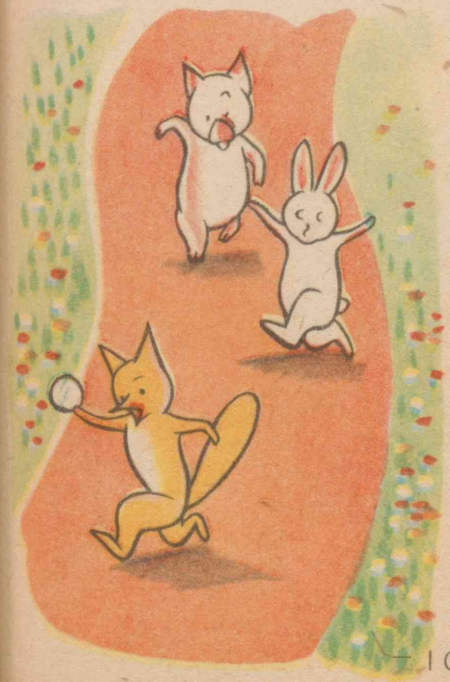
くよ。」

と いった、さっさと にげて

いきました。

ふたりは、こんちゃんの

あとを おいかけました。



もう、日の くれがたです。こんちゃんは、じぶんの
家にかえりつきました。

ぶんちゃんと みみちゃんは、

とうとう こんちゃんの うち

まで きました。

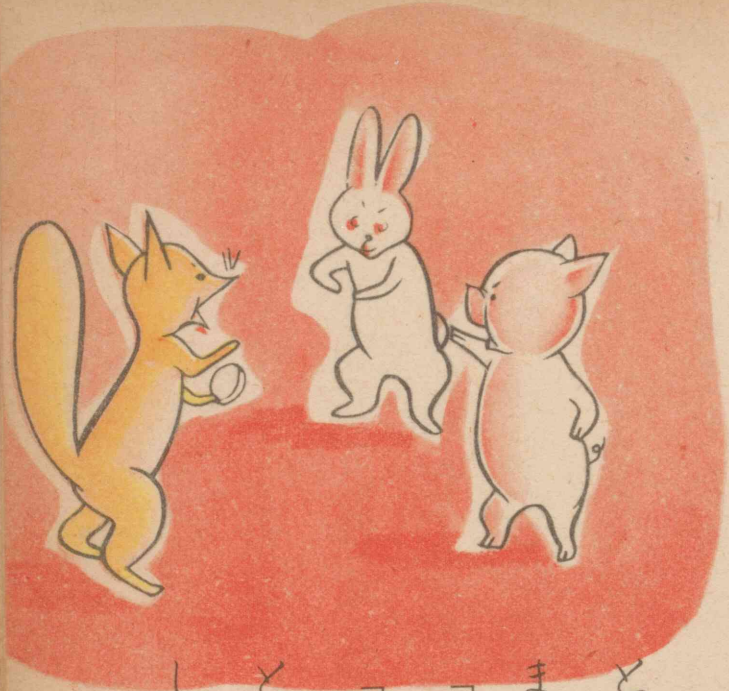
「ぼくのおとうさんだ。」

「わたくしの おとうさんです。」

と みんなが いうので、はな

しは きまりません。

ものしりの くまさんに、き



めて もらう ことに しま
した。

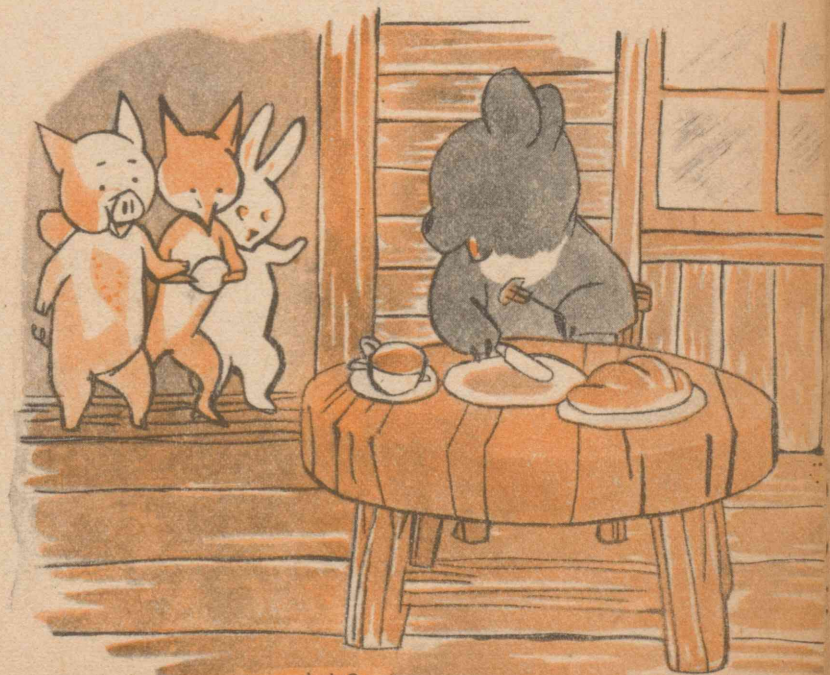
くまさんの うちに いき
ました。そこは 谷そこです。

くらい おへやで、夕はん
を たべて いました。

三人は、いままでの わけ
を はなしました。

くまさんが かがみを と

って 見ると、くらくて なにも 見えません。



「なにも 見えないよ。そとには お月さまが でて い
る。お月見を しながら きめよう。」

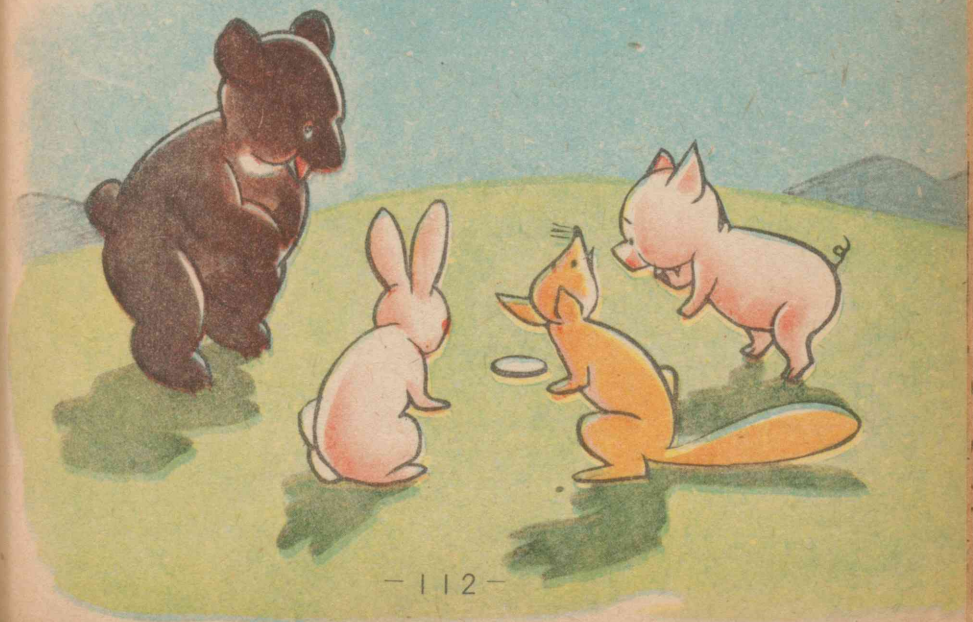
と、くまさんたちは、山の 上に のぼって いきました。
お月さまは、空 たかく あがって います。

みんなは、ひろい ところに てました。三人の まん
中に、かがみを おきました。

くまさんが 見ると、だれの おとうさんも 見えませ
ん。お月さまが 光って いるだけでした。

「だれの おとうさんでも ない。これは お月さまだよ。」
と、いいました。

三人は おどろいて よこから
見ると、お月さまの かおが 見
えます。



くまさんは、
「ああ、わかった。みんなが とりあいを するから お
とうさんの かおが 見えなく なったのだよ。これは
はじめに みつけた ぶんちゃんに かえしましょう。
ぶんちゃんは、みんなに 見せて やりなさいね。そう
したら きつと、みんなの おとうさんが でて きま
すよ。」
と、いいました。
それから、みんな おとうさんが 見たく になると、
ぶんちゃんに 見せて もらいました。

(二) ふゆの町

1 「ふゆの町」の ところを つづけて
よみましよう。

2 町に ふゆが きた ことは、なにで
わかりますか。

3 まさおさんは、ふゆの 町で、なにを
見ましたか。見た じゅんに かきなさい。

4 まさおさんは、町で どんな こうこ
くを 見ましたか。みなさんも、じぶん
で よめる こうこくを、あつめて か
きなさい。

5 つぎの おはなしの あとを、つづけ
てください。

○よつかどに じどうしゃが

○よつかどを じどうしゃが

○かるたを いっしょに

○おはなしの 本を

○おはなしの 本が

6 まさおさんの つくった かるたは
なにを もとに して いるか わかり
ますか。それは、学校で ならった こ
とを もとに して いるのですね。

○空に あがった やつこだこ。

○めだかを すくった はるの 川。

この ほか、どうぶつを もとに す
る かるたや、

○かあ かあ からす お山へ かえる。

○たんぼの いながが びんぴんぴん。

おはなしを もとに する かるた、

○きった たけから かぐやひめ。

などが あります。

いろいろな かるたを つくって み
ましよう。

7 かるたの ことばは、どんなにつくっ
たのが すらすら いえるのでしょうか。

8 「ふゆの 町」の ところで、あたらしく
でた ことばは なにか、よく しらべ
て かきましよう。

9 つぎの □の 中に ことばを 入れて、

おはなしが わかるように しましよう。

○□には くもが でて きました。

○道の □□が □□□□ とけて い

きます。

(三) おともだち

1 おともだちの ところを なんべんも
よみましょう。

○たこあげを みて いる 人に ○を
つけなさい。

おとうさん おかあさん ねえさん

まさおさん よしこさん ひろしさん

みちおさん ゆきこさん すみこさん

○たこには なんの えを かきました
か。

おとうさんの たこー

まさおさんの たこー

○たこあげの おはなしに、えが いく
つも でて います。おはなしが でき

ますか。できたら して ぐらんささい。

2 まさおさんの おたんじょうかいを

おもいたった 人は、だれと だれです

か。なまえを かきなさい。

3 おたんじょうかいで なにを しまし

たか。なまえの 下に かきなさい。

ゆきこさんー

たかしさんー

すみこさんー

おとうさんー

4 たかしさんの うたった うたで、

○おなじ ことばが なんべんも あり
ます。しるしを つけなさい。

○なにか おかしいのでしょう。おかし
い ものを ノートに かきなさい。

5 ひつじかいの おはなしで、一ぴきの
ひつじを かくしたのは、だれでしょう。

6 おとうさんの おはなしで、おもしろ
い ところは どこですか。おはなしし

て ぐらんささい。

7 □の中に ことばを いれて、おはな
しの わかるように して ください。

○とんきちさんは □の 上に ねて
□を 見て いました。

○まさおさん、□□□ね。ぼうしを
かぶって いると おとうさんのよう
だね。

8 みなさんも おたんじょうかいをし
た ことが ありますか。した ことが
あったら、おはなしして ぐらんささい。

(四)

1 まさおさんは だれに おてがみを
だしましたか。

まさおさんは がくげいかいで なに
に ですか。

みなさんも おともだちや しんるい
の 人に、おてがみを だしましょう。

2 「がくげいかい」の ところを よんで、
上の ことばと、下の ことばを つな
ぎなさい。

たかしさん うたを よむ

ゆきこさん 「うさぎの でんぼう」

まさおさん 「ぼくの おとうさん」

みちおさん おどりを おどる

すみこさん おしまいの あいさつ

3 「わたしは 春の つかいです」を なん

べんも よんで、春の つかいが 見た

じゅん、きいた じゅんに ならべな

い。

○うぐいすの うたが きこえました。

○小川の 水が よろこびの 声を あ

げました。

○子どもたちが 空を 見あげました。

○すみれだけが おきました。

○ゆきの 山を 見ました。

○めだかを 見ました。

○白い うめが はなを つけて いる

のを 見ました。

4 「お日さまと 風」の ところを おとも

だちと わけて よみましょう。また、

おともだちと やって みましょう。

○お日さまが 風に かった わけを

かきなさい。

○お日さまには だれが になりましたか。

5 「ぼくの おとうさん」の ところを な

んべんも よんで、おはなしの じゅん

に ばんごうを つけなさい。

○ぶんちゃんが みみちゃんに あいま

した。

○こんちゃんが みみちゃんを つかま

えました。

○こんちゃんは かがみをもつて に

げて いきました。

○くまさんは 山の上へ あがって

あいず……………(33)
 あえる(あう)……………(101)
 あしおと……………(86)
 あたたかい……………(27)
 あと……………(38)
 あやまり(あやまる)……………(23)
 あり……………(19)
 いじめる……………(105)
 いちよう……………(14)
 いっしょうけんめい……………(24)
 いわ……………(11)
 いわい(おいわい)……………(59)
 うちわ……………(91)

うつぶせ……………(96)
 うつり(うつる)……………(100)
 うまく……………(55)
 うめ……………(85)
 おかしい……………(64)
 おちば……………(12)
 おばあさん……………(34)
 おまわりさん……………(31)
 がいどう……………(94)
 かかし……………(6)
 がくげいかい……………(60)
 かくし(かくす)……………(71)

かぎぐるま……………(20)
 かぎった(かざる)……………(29)
 かし(おかし)……………(62)
 かず……………(70)
 かぞえて(かぞえる)……………(70)
 かびん……………(22)
 かべ……………(62)
 かりました(かりる)……………(74)
 かるた……………(30)
 かんがえる……………(46)
 きいろい……………(12)
 キキツ……………(8)
 きつと……………(101)

あたらしくでたことば

いきました。
 ○ぶんちゃんが かがみを ひろいまし
 た。
 ○みみちゃんは かがみを 見て、「わた
 くしの おとうさんです。」と、いまし
 た。
 ○かがみを はじめに みつけた ぶん
 ちゃんに かえしました。
 ○ぶんちゃんと みみちゃんは、こんち
 ゃんの うちまで いきました。
 ○くまさんは、「これは だれの おとう

さんでも ない。お月さまだ。」と、いま
 しました。
 ○みんなは くまさんの うちへ いき
 ました。
 6 はんたいことば
 ○上の ことばと はんたいの ことば
 を かきましよう。
 さむい——
 あかるい——
 ○こんな はんたいことばを たくさん
 あつめて みましよう。

だまって(だまる) (98)
 だめ (96)
 たんじょうび (58)
 ちよっと (74)
 ちらちら (40)
 つえ (34)
 ついた(つく) (34)
 つきあたり(つきあたる) (87)
 つめたい (38)
 つもって(つもる) (37)
 テープ (55)
 とい (14)
 とおり (28)

とけて(とける) (42)
 としのいち (26)
 とっと (75)
 とび (56)
 とんきち (67)
 なかなか (24)
 なかよく (11)
 なでる (84)
 にいさん (16)
 にた(にる) (100)
 にちようび (26)
 ぬがせる (95)
 ぬりえ (44)

のきたまえ(のく) (88)
 のこり (46)
 のばし(のばす) (54)
 のぼる (4)
 のり(おのり) (66)
 のりづけ (53)
 はき(はく) (16)
 パチパチ (17)
 はつゆき(ゆき) (37)
 ハーモニカ (50)
 ばらばら (13)
 はり(はる) (63)
 はれた(はれる) (50)
 ひかって(ひかる) (39)

くちぶえ (69)
 くつ (73)
 くらくて(くらい) (110)
 くりくり (9)
 くるくる (15)
 くれがた (109)
 ぐんぐん (54)
 けいこ(おけいこ) (77)
 けが (35)
 げき (77)
 げた (38)
 けむり (17)
 げんき (5)
 こうこく (28)

ことば (45)
 このあいだ (79)
 こんや (86)
 サアッ (16)
 さかなやさん (81)
 さげて(さげる) (29)
 さっさと (108)
 さまし(さます) (14)
 さむく(さむい) (36)
 さらさら (14)
 しかく (52)
 しずかな (17)
 じぶん (43)
 ジャーッ (42)

しる(おしる) (65)
 すすんで(すすむ) (82)
 せり (85)
 せのび (85)
 せわ(おせわ) (68)
 そっくり (104)
 ぞろぞろ (28)
 たおれそう(たおれる) (93)
 たき(たく) (16)
 たけ (51)
 たて(たてる) (42)
 たびびと (87)

ろうか……………(44)
 わたしました(わたす)……………(56)
 わたって(わたる)……………(84)

谷 (84)	考 (46)	道 (39)	近 (23)	字 (6)
右 (87)	草 (68)	光 (39)	町 (26)	少 (17)
冬 (100)	力 (79)	学 (41)	風 (27)	紙 (18)
思 (105)	春 (80)	校 (41)	走 (30)	家 (19)

かん字

ほんとう……………(92)	ほね……………(52)	ほつと……………(35)	ポツカリ……………(56)	ほしそう(ほしい)……………(7)	ほか……………(79)	ぶたのぶんちゃん……………(100)	プログラム……………(62)	ふくろ……………(91)	ふきとばされて(ふきとばす)……………(92)	ヒュウ……………(88)	ひばり……………(86)	ひつばられて(ひつばる)……………(57)	ひつじかい……………(67)	ひく……………(54)
もつと……………(94)	もず……………(8)	メートル……………(54)	みみちゃん……………(102)	みちがえる……………(8)	みぎ……………(87)	まんなか……………(33)	まるい……………(12)	まいご(まよいご)……………(30)	そのま(ま)……………(34)	まいて(まつ)……………(90)	ボンボン……………(51)			
れんげ……………(45)	るすばん……………(45)	りょうがわ……………(29)	リックサック……………(5)	りこう(おりこう)……………(74)	よつかど……………(31)	ようし……………(90)	やぶれた(やぶれる)……………(6)	やぶかけ……………(85)	やいた(やく)……………(66)	ものしり……………(109)				

Copyright 1949, by
The Gakkō Tosho Kenkyukai

All rights reserved
The text of this publication or any part thereof
may not be reproduced in any manner whatsoever
without permission in writing from the authors.

小国210

こくご二年生 下

Approved by Ministry of Education
(Date Oct. 14, 1949)

こくご二年生下の編修について

一、本書は、教育基本法、学校教育法、学習指導要領一般編、同国語科編、小学校国語科検定基準などの趣旨を具体的にあらわすことにつとめた。児童の興味や生活経験や心理的発達に即して単元学習をはかっている。
二、二年生用は上・下二冊とし、上は四月から十月まで、下は十一月から三月までに使用するよう組み立てられている。
三、本書は四単元から構成されている。「山のぼり」では、秋の自然に親しむことによつて自然界に対する目を開き、「ふゆの町」では、季節に対する感覚をみがぐととも、自己活動を期待し、「おともだち」では、遊びや集会の中に、社会生活への関心と自己表現の技術を体得することにつとめ、「がくげいかい」では、興味のうちに、心情を豊かにするとともに、自治的活動の場を構成していくように組み立てられている。こうした中に、おのずから多様な国語学習がなされていくことに特に意を用いた。

四、本書の新出語いは総数百五十二語で各ページの新しい語は二―三語に止めてある。文体は児童の生活言語に即した敬体を用い、文構造の基本的なものとした。同時に文体に変化を持たせることにも注意した。
五、かなは平がなを本体とし、擬声語、擬態語、外来語を写す場合にのみかたかなを用いた。擬声語、擬態語によつて出てこないかたかなは、「かるたづくり」のところ、比較対照しながら学習しよう工夫した。漢字の新出は、一十字である。語いや漢字の選択にあたっては、生活言語のうち児童に即したものの基本的なものを選んだ。
六、巻末に語い表と「おしごとの手びき」とを示し、児童の学習や教師の指導に便ならしめた。これを手がかりとして、新しい問題を発見し、構成して諸種の国語学習がなされることを深く期待しているのである。

感謝のことは

「おかしいな」……………奥田準一氏作
右の作品を本書に掲載させていただきました
ましたことについて、著者の方
に厚く感謝申しあげます。

編者

広島市東千田町
広島高等師範学校附属小学校内
財団法人 学校図書研究会
執筆担当者 広島高等師範学校教諭

表紙と
さしえ
今石光 大西久 小川利雄
原田直 大田原 槻原定
雄夫

昭和二十四年七月十一日印刷
昭和二十四年七月十五日発行

定価 四 銭

著作者 廣島市東千田町廣島高等師範学校内
財団法人 学校図書研究会
会長 森岡文策
発行者 東京都港区芝三田豊岡町八番地
学校図書株式会社
代表者 川口芳太郎
印刷者 東京都港区芝三田豊岡町八番地
図書印刷株式会社
代表者 川口芳太郎
発行所 東京都港区芝三田豊岡町八番地
学校図書株式会社

本書の指導書・ワークブック 註釋書並びにこれに類する一切のもの無断發行を禁ずる

1911
11月
11日

広島大学図書

0130449666

